

平成31年度 学校自己評価表（報告）

学校運営計画			
学校運営方針		学校の教育目標及び重点目標を実現するために、すべての教職員が協働し、支え合い補い合いながら、その持てる力を結集した学校運営を実現する。	
昨年度の成果と課題		年度の重点目標	具体的目標
<p>【成果】</p> <p>(1) 自己実現に向け、将来の目的を主体的に考えさせることができた。</p> <p>(2) 多様な選択や単位認定の制度によって、多様な生徒の単位修得につながった。</p> <p>(3) 全職員が「いじめを見逃さない」という強い意識で生徒の指導にあたり、認知時の情報と指導の共有が図られた。</p> <p>(4) 研修をとおして特別支援教育に対する教職員の理解と技能を向上させ、SCや関係機関との連携を一層促進できた。</p> <p>(5) 就労支援体制を変更し、進路と支援教育部、担任の連携を促進するなど、多様な生徒の実態に合わせた指導・相談が実施できた。</p> <p>(6) PTA広報誌の内容を工夫し、学校の様子が伝わるようにした。</p> <p>【課題】</p> <p>(1) 生徒が主体的、対話的で深い学びができるような教育課程の工夫。</p> <p>(2) 学習習慣の確立と基礎学力の習得を目指した教科指導、生活習慣の指導改善。</p> <p>(3) 生徒の規範意識の涵養を図り、社会へ出るための意識を高める。</p> <p>(4) いじめや対人関係トラブルを未然に防ぐアサーショントレーニングを充実させる。</p> <p>(5) 未履修科目・単位不認定科目を出さない取組を行う。</p> <p>(6) 特別支援教育の一層の充実・推進を図る。</p> <p>(7) 生徒の進路実現を図るため、早期からの意識付けを図るなど進路指導を充実させる。</p>		<p>(1) 単位制高等学校の特性を生かし、一人一人の生徒の個性、能力を伸ばす。</p> <p>○学ぶ楽しさを教え、基礎学力を定着させる。</p> <p>○個に応じた教育を充実させ、進路実現を図る。</p> <p>(2) 特別支援教育をより一層充実させ、生徒を支援する。</p> <p>○学習のユニバーサルデザイン化を一層推進する。</p> <p>○全職員・SC・保護者及び専門機関の連携を強化する。</p> <p>(3) 保護者が安心して子どもを託せる学校にする。</p> <p>○自他の生命と人格を尊重する態度の育成、いじめの起こらない学校づくり</p> <p>○将来の社会人としての資質の涵養、社会規範の定着</p>	<p>・多様な履修形態や授業選択を通して、自己のあり方や生き方、将来への目標を学ぶ。</p> <p>・学校生活全体を通して、学習に対する目的意識や動機付けを図る。</p> <p>・一人一人の特性を踏まえ、多様な授業方法や評価法を創意工夫する。</p> <p>・きめ細かく丁寧な教科指導を行い成績不振に伴う休学者や中途退学者の減少を図る。</p> <p>・自ら進路研究を行い、就職や進学につなげる姿勢と力を生徒に身に付けさせる。</p> <p>・進路相談の充実を通し、進路希望を的確に把握し、進学・就職・就労支援に向けた指導を徹底する。</p> <p>・単位制高校の特色を生かして生徒の個性、特性に応じられる「特色ある学校づくり」を推進する。</p> <p>・特別支援教育の視点から学習環境の改善を図り、学校生活において困り感のある生徒の支援を進める。</p> <p>・職員・SC・関係機関の連携を図り、生徒の心の負担の軽減にむけて、組織的に取り組む。</p> <p>・生徒の規範意識を向上させ、自他を大切にすることと行動の育成を行う。</p> <p>・遅刻・欠席の防止を図る。</p> <p>・交通安全の意識を高める。</p> <p>・心身の健康を自己管理できる実践力を育成する。</p> <p>・清掃環境を整え、清掃活動に積極的に取り組む態度の育成を図る。</p> <p>・積極的に情報を発信するなど、地域に開かれた学校づくりを推進する。</p>
重点目標	具体的目標	具体的方策	評価
単位制高等学校の特性を生かし、一人一人の生徒の個性、能力を伸ばす。	多様な履修形態や授業選択を通して、自己のあり方や生き方、将来への目標を学ぶ。	社会人講演会や進路講演会を実施し、進路意識の向上を図る。	A
		同和教育講演会を実施し、人権意識や人権感覚の涵養を図る。	A
		『科目選択の手引き』を利用し、積極的・計画的に学習する態度を養う。	B
	学校生活全体を通して、学習に対する目的意識や動機付けを図る。	各教科の学習目標を明確化することで、達成感を体験させる。	A
		各種検定試験を受験させることで、生徒の得意分野を伸ばし、自己肯定感を育む。	B
	一人一人の特性を踏まえ、多様な授業方法や評価法を創意工夫する。	多様な履修形態（少人数授業、習熟度別学習、TT授業等）の実施により、生徒一人一人を大切にしたいわかる授業を工夫する。	B
		教職員・生徒の双方で、授業全体についての評価を実施する。	A
きめ細かく丁寧な教科指導を行い成績不振に伴う休学者や中途退学者の減少を図る。	単位制高校の特色を生かし、高等学校卒業程度認定試験、技能審査、定通併修、学校外における学修等の成果の単位認定制度を周知し、生徒の積極的な単位修得を支援する。	B	
	他校訪問や中高連携による情報交換をとおして、教職員の資質の向上を図る。	B	
自ら進路研究を行い、就職や進学につなげる姿勢と力を生徒に身に付けさせ		年次別に職場・上級学校見学を実施し、進路決定に役立たせる。	A
		各種検定試験や各種模擬試験を受験させることで、生徒に進学情報を積極的に収集させ、自己啓発の能力を高めさせる。	B

	る。	マナー学習により、TPOをわきまえた服装や言動・言葉遣い等を身に付けさせる。	A			
	進路相談の充実を通し、進路希望を的確に把握し、進学・就職・就労支援に向けた指導を徹底する。	進路指導の充実を図るため、年次団や外部機関等と密に連携し、計画的な進路指導を行う。	A	A	A	
		進路決定への意識啓発を図るため、総合的な学習の時間及び学校設定科目「ガイダンス」と連携した進路ガイダンスを実施する。	A			
		進路希望調査により生徒・保護者の希望状況を把握し、面談等による意識付けに役立てる。	A			
		職場・上級学校見学、進路講演会、職業学習、適性検査等を実施し、生徒の進路意識の向上及び勤労観・職業観の育成を図る。	A			
		進学・就職意識を向上させるため、各種校外模試を計画する。	B			
		ハローワーク等の外部機関と連携して進路情報を適宜提供することで、生徒の進路希望の実現を図る。	A			
		就職希望者に対して、求人票の見方等の基本的指導を早期に行うとともに、個別面談や模擬面接を計画的に実施する。	A			
		専門機関と連携して、多様な生徒の学校生活及び卒業後の自立・就労に向けた支援を進める。	B			
特別支援教育をより一層充実させ、生徒を支援する。	単位制高校の特色を生かして生徒の個性、特性に応じられる「特色ある学校づくり」を推進する。	生徒の興味や進路希望に応じた特色ある教育課程の編成を行い実施する。	B	A	A	
		年間計画の精選により、授業時数の確保に努める。	A			
		単位制高校としての学校行事を充実させる。	A			
		社会人講座を実施する。	A			
	特別支援教育の視点から学習環境の改善を図り、学校生活において困り感のある生徒の支援を進める。	学校生活全般において、全ての生徒が利用しやすく、全ての生徒に配慮した学習のユニバーサルデザイン化の取組を推進する。	A	A	A	
		こまめに個別面談を行い生徒が自己実現するための方策を生徒と共に探ることで、人間関係のトラブル防止や学校適応促進等を図る。	A			
	職員・SC・関係機関の連携を図り、生徒の心の負担の軽減にむけて、組織的に取り組む。	スクールカウンセラーと年次団・養護教諭等が密に連携し、一人ひとりの生徒の理解に努める。	A	A	A	
		医療機関や市町村の福祉機関と連携を図り、保護者と情報を共有しながら生徒の支援を進める。	B			
保護者が安心して子どもを託せる学校にする。	生徒の規範意識を向上させ、自他を大切にすると行動の育成を行う。	身なり、挨拶等、高校生としての態度や服装の指導を徹底する。	A	A	A	
		通学路等での立哨指導を適宜行うことで、駅の使用や登校下校時の歩き方等、公共の場でのマナーの向上を図る。	B			
		生徒の安全・安心を確保するために、校舎内、校地内等の巡視を計画的に実施する。	A			
		年3回のいじめアンケートに加え、行動振り返りシートを年6回実施する。また個別面談等を通し、いじめの未然防止に努める。	A			
		遅刻・欠席の防止を図る。	B			
	交通安全の意識を高める。	交通安全講話と原動機付き自転車の実技指導を実施する。	A	A		
	心身の健康を自己管理できる実践力を育成する。	性の講演会、救急法講習会の実施、保健だよりの発行、個別の保健指導の充実を図り、心身共に健康な生活を送る実践力を育てる。	心の健康問題を抱える生徒に対して、学級担任や関係職員と連携を図り、相談活動と支援の充実を図る。	A	A	B
			1年次生を対象に薬物乱用防止講演会を実施する。	A		
			清掃用具等の清掃環境の整備、ゴミの分別の徹底、清掃活動に積極的に取り組めるように適切な清掃区域を割り当てる。	B		
	清掃環境を整え、清掃活動に積極的に取り組む態度の育成を図る。	清掃用具等の清掃環境の整備、ゴミの分別の徹底、清掃活動に積極的に取り組めるように適切な清掃区域を割り当てる。	B	B		
	積極的に情報を発信するなど、地域に開かれた学校づくりを推進する。	学校視察等を受け入れ、学校の公開を図る。	ボランティア活動や地域行事に積極的に参加する。	B	B	B
			中学生体験入学の実施、学校説明会で単位制高校のPRを行う。	A		
PTA、同窓会や地域と連携した文化祭を実施する。			B			
PTA総会の内容を充実させることで出席者の増加を図り、学校の取組を理解してもらう。			B			

		P T A広報誌「西古志」を年3回発行し、町内全戸に回覧する。 行事計画や活動報告などを掲載するホームページの充実を図る。	A		
			A		
成果	<p>【成果】 進路指導部が就労支援を担当するように改組した結果、生徒とハローワークとの情報交換が活発になり生徒に適した就労支援が行えた。 特別支援教育の研修や地域連携を引き続き進めるとともに、スクールカウンセラーを積極的に活用することで、保護者と連携を図った生徒の支援が行えた。 いじめ対策推進教員がいじめ問題解決や職員間の情報共有に重要な役割を果たした。また、アンケートの見直しなど、いじめ見逃しゼロへの取組を進めた。</p> <p>【課題】 生徒の学習や進路への意識を向上させる取り組みの一層の充実を図り、資格検定等への積極的な挑戦、進路未決定者の減少を図る。地域や保護者と連携を進め、生徒の社会体験の機会を増やし、対人コミュニケーションやマナーを学ぶ機会を増やす。</p>		総合評価		B